江口

次第

月ハ昔し春とハなくてぞく

下

じよ誰かハ流く彫まし

口上詞

是ハ諸国一見乃僧にて候我此度

津の国天王寺に参りて候難み

ば度思立天王寺に参りけりやと

次行上

思ひ候　執を尽くあまこ想深さよ

藤立てく隠の河むかし末ハ

宇とのゝあしのほのみえし
松のけふりの波よする江口の
里につきにけり
是成江口の君の旧跡とや
痛ハしや其身ハ土中に埋れ
いの世に残りて今までも
昔語の跡を見る人の哀

哀なる哉や西行法師此所にて
一夜の宿をかりけるに主の
心なかりし世中をいとふまて
こそかたからめかりの宿りをおしむ
君の歌と詠しゝも
此所にての事なるへし
痛ハしや なき跡まても

うら風むしろ いひとあへ
みしきや風く月はみえ天は
川水に遊女乃うらみ舟かうひ
月に見えしはぬしきさよく
河舟をとめて逢瀬の波枕く
うき世の遊女を見なれし
木と祝りぬ万葉に風きよせよ

ひめ松浦のこずゑさびしく袖
渡の唐船乃名残なごりて宇治の
橋姫もどはむともきぬ人を待
もの乃上を菊思ひしや吉野乃
よしやよし桜乃花も雲も
なかもなりけりいりしや
みしきや風月流渡ぶ水の面に

月も影さしそ日の哥　うつへ
やうやう大空乃萬衆有の
悲しさを啼も遊女歌舞あそひ
世を去る一かしをまちひ家
いらさゝや遊り安　夫十二因緣乃
流轉ハ車乃庭に四條のことし
香のは風にあそふよ川

當生もこゝ前生　所作て生ゝ恚
き義をおもしは　來世を我未世
便ま世この改星をやきすふ歌
事なし　如來ひハ人中天上乃
善果をまかせい曲咲說倶迷妄
しゑいさこ解脫の雜をうへ川
我ハ三途八難乃雲頭よ堕しく

恵よ得し教へすれハ發心の
なりちをましなつ縁るに
承ホ道をきのこさぬ人力拔うき
うわ此り世乃飛葉小の勢力と
生殊ためしくな勢河竹の
あつれ男女と隔ざさ世乃よ葉
歎ひきの久思ひやらう此世を秋

又花の散落やしただ錦繍の山
ようかひをかくし見えしも
又秋風よさそり秋の景の秋乃
遊ふへ黄纈纈乃きやしだき
ぬく世此り世ともなの霜入り
ま清らふ松風蘿月にさかと葉を
すりし賓客もぞ去て来数る

波のたゝぬ日もなし〱
波乃立居も何故ぞかりなる
宿に心とむる故　心とめずハ
うき世もあらじ　人をも
したはじ　まつ暮もなく
別路もきらはじ　花よ紅葉よ月
雪の古言もあらよしなや

思へばかりの宿　おもへば宿に
心とむなと人をだに
いさめし我なり是までなりや
帰るとてすなはち普賢菩薩と
あらはれ舟ハ白象となりつゝ
ひかりと共に白妙の白雲に
うちのりて西の空に行給ふ

二七八一下一一丶一ノ丶ヒ一丶

右数く次おかた由序ありて承さなし

一丶一丶丶丶丶

きうゑ木同由禮